

## 6. 地域間交流による農業・農村体験活動

本ハンドブックでは、これまで地域（地域における活動主体）が農業・農村体験に取り組む際の、事例および取り組みポイントについてふれてきましたが、都市の子どもたちが農山村に滞在して農業・農村体験を行う取り組みも増えています。（農村の子どもたちが都市の市場などを訪れるケースもあります。）

地域間交流による農業・農村体験は、異なる地域の連携が必要であり、活動の前提として「移動」が不可欠な要素となるなど、活動を成立させる上での課題が増えるものの、自らの地域にはない様々な資源やひとに出会えるといったメリットも多いものと思われまます。ここでは、地域間交流による農業・農村体験を実施した際のメリット・デメリット（課題）・対策の一例を示します。

### 地域間交流による農業・農村体験におけるメリット・デメリット・対策

<p><b>メリット</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境や生活文化の異なる地域（異文化）の体験が可能</li> <li>・ 都市部の地域でも、農業・農村体験の環境が整いやすい</li> <li>・ 景観や古くからの生活空間など、農村空間の体験が可能</li> <li>・ 地域間における子どもたちの交流も可能</li> <li>・ 農村の子どもたちが都市を体験するケースも （市場や店舗、都市空間の体験等）</li> </ul>
<p><b>デメリット （課題）</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交通費、宿泊費等の経費負担が増大</li> <li>・ 移動時間が大（活動時間の圧迫、宿泊の必要性）</li> <li>・ 活動頻度に限界（頻度が小さくなる）</li> <li>・ 居住地と体験地が離れているので、活動と活動の間を埋める活動に工夫を要する</li> <li>・ 宿泊や体験など、受け入れ側の体制づくりが必要</li> <li>・ 子どもたちを送り出す保護者の説得、活動時の安全確保等</li> </ul>
<p><b>対策例</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域（特に送り手）間の相互負担（予算化）</li> <li>・ 移動時間の有効活用</li> <li>・ バケツ稲づくりと農村体験を組み合わせるなど、居住地域の活動と訪問地域の活動を関連づけた企画づくり</li> <li>・ 訪問地域（特に農村）が精神・経済的にメリットの得られる仕組みづくり</li> <li>・ 保護者等に向けた説明会の実施 保護者や先生自身の体験を促し、理解者の拡大を図る</li> <li>・ 万全な安全対策、保険への加入他</li> </ul>